

県高等学校審議会からの答申書の概要

答申書の内容

入学者選抜制度の検証の経緯

第10次山梨県高等学校入学者選抜制度審議会答申

小学区・総合選抜制度が抱えていた課題への対応

- ・全ての生徒に学校選択幅を平等に増やし、複数回の受検を可能にする
- ・生徒の特性や進路希望に応じた学校選択を可能とする

全県一学区制にあたっての懸念とその対応策

【懸念】

- ・過度の受験競争の発生
- ・高校の序列化の発生
- ・特定校への志願者集中

【対応策】

- ・受検機会の複数化
- ・複数の評価尺度による選抜
- ・特色ある学校づくりの推進

平成19年度入試～

- ・通学区域を撤廃し、全県一学区制を導入
- ・学力のみによらない複数の評価尺度による自己推薦制の前期募集を導入

導入後の
検証

※生徒の主体的な学校選択が広がったことは評価すべき
※地域からの流出は、次第に数値が落ち着いてきている

※前期募集は、全県一学区制と一体化しており、一定の評価を受けている
※高校入試の主人公たる受検生の評価が高い
※入学者選抜制度を生徒の個性を伸長するという視点から考える
※受検機会の複数化は堅持

※後期募集は、問題点を指摘する意見はない
※新学習指導要領に基づく検査問題の作成に努める

○全県一学区制は概ね良好に推移しており、現行の入学者選抜制度等により、導入の際の懸念は抑制されてきた

※全県一学区制、前期募集・後期募集は継続

現行の入学者選抜制度は、導入当初の懸念に対しては機能してきたが、新たな課題が指摘されている

前期募集の新たな課題と対応について

前期募集の新たな課題

- ・前期募集の選抜基準に不透明感がある
- ・中学校での部活動や校外活動で実績を残すことのみで希望する高等学校に進学できるような意識を一部の生徒や保護者がもっている
- ・前期内定者は部活動等で特色ある高校づくりに貢献しているが、一部の生徒には学力不足の懸念もある
- ・前期募集の内定発表後に、内定者への集中力の維持や不内定者への対応等に中学校現場での指導上の困難さがある
- ・新学習指導要領の全面实施を受け、中学校での学習活動を保証するために日程を含めて考えるべきである

新たな課題への対応の方向性

中高連携による協働

○検査内容の改善

- ・後期募集の「学力検査」とは違う、それぞれの高等学校が求める適性を問う検査（特色適性検査）を各高等学校の裁量で導入する
- ・前期募集の存続を前提とした上で、特色適性検査の導入、募集率などで選抜に高校裁量の自由度を増し、特色ある学校づくりを推進する
- ・面接で学力を問うことを行わない

○中高の接続による生徒理解の充実

- ・いわゆる条件Bにおいて中学校長の証明書を提出する
- ・受検生を多面的に評価するシステムの構築や調査書の内容等を検討する

○入試日程の改善

- ・「学びのセーフティネット」を維持しながら、全体的な日程を遅らせる

中等教育における中高の接続の要としての入学者選抜制度の構築